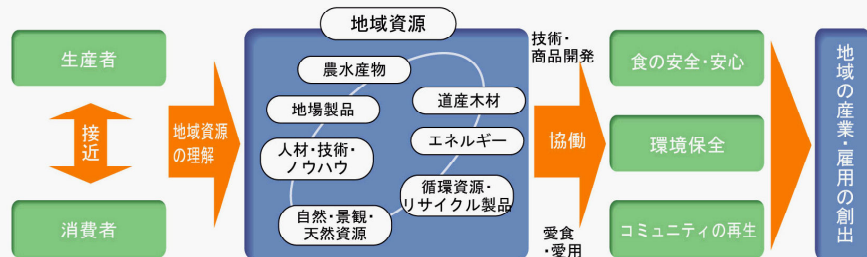


1 「産消協働」とは

地域のものを地域で食べようという食の分野の「地産地消」の考え方を様々な分野に広げて、地域の生産者と消費者が連携・協力し、地域の素材や技術を使い、地域の人材を活用して、みんなで地域経済の活性化を目指そうという道民運動。

【産消協働のイメージ】



実践例

<(財)下川町ふるさと開発振興公社>

初冬まき小麦「ハルユタカ」の生産が盛んな下川町で、町内の地域資源を活用した産業振興に取り組む(財)下川町ふるさと開発振興公社では、その活用方法をさらに広げようと、ハルユタカを使ったラーメンと地ビールを開発した。

ラーメンの商品開発では、江別市の江別製粉(株)、(株)菊水と協力し、下川産ハルユタカを100%使用した「万里長城ラーメン」を商品化した。両社は、平成19年8月に開催された「小麦サミット2007inしもかわ」を後援するなど、「小麦」を通じて、二つの地域が連携した取組へと発展しつつある。「万里長城ラーメン」は、下川町で創業した菊水が製造し、下川産のハルユタカとともに、町民手作りの観光資源「万里長城」のアピールも目指している。

地ビールは、下川町ふるさと開発振興公社が「大雪地ビール」(旭川市)に製造を委託、モルト(麦芽)は「十勝ビール」(帯広市)が製造し、ハルユタカの麦芽を55%以上使用した地ビール「萌芽(ほうが)」が誕生した。国内で生産されるビールの多くは、輸入物の麦芽を使用しており、国産の麦芽を使用したビールは国内でも珍しい。

いずれも同町内の五味温泉などで販売中。



2 事業概要

北海道メールマガジンにおいて、産消協働の実践例である「万里長城ラーメン」の読者プレゼント企画を設定し、産消協働をPR。

